

子どもの姿から捉える「10の姿」モデル

令和7年度、長期研修生として幼児教育と小学校教育の接続について研究を進める中で、幼児教育施設及び小学校教員を対象にアンケート調査を実施しました。その結果、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」の認知度や子どもの育ちの捉え方に幼小間で差が見られました。

子どもたちは、幼児期の豊かな遊びや体験を通して様々な力を育んでいます。本資料では、「10の姿」を手がかりに、幼児期の学びが小学校でどのように生かされ、発展していくのかを整理しました。

幼児教育施設と小学校が共通の視点で子どもの育ちを捉え、学びの連続性を意識した教育を進めるための一助となれば幸いです。

『10の姿』モデルの見方

10の姿の概要（文部科学省より抜粋）



幼児教育施設

幼児教育施設における
環境や活動など

子どもの姿



小学校

小学校における
環境や活動など

< 幼児期の特徴 >



架け橋期の視点：

架け橋期に大切にしたい視点

① 健康な心と体

幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。



幼児教育施設

- ・体を使って遊ぶ時間が十分にある
- ・自分のペースで活動できる
- ・安心できる関係の中で過ごす

子どもの姿
やりたい！
動きたい！



小学校

- ・時間割中心の生活
- ・座位の時間が増える※
- ・一斉活動が多くなる
- ・生活リズムの適応が求められる

<幼児期の特徴>

すぐに動きたくなる・体が動く
＝身体を通して学ぼう
としている姿（幼児期
は「動的集中」）



架け橋期の視点：

運動能力の向上に焦点を当てるのではなく、
「自分から関わって活動したくなる環境」を作
ること →体育科「〇〇あそび」

※柔軟な学習形態：20分ずつくらいで学習内容に変化

② 自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。



幼児教育施設

- ・活動や場所を選べる
- ・何度でも挑戦できる
- ・援助は求められた時
- ・『やってみる』が尊重される

子どもの姿
ためしたい！
自分で決めたい！
「先生見て」



小学校

- ・時間割や課題は共有
- ・手順や見通しが示される
- ・一人で取り組む場面が増える
- ・めあてと振り返りで自覚を促す

< 幼児期の特徴 >

先生に「見て！」

と言いに来る

= 依存ではなく探索と
安心を往復している状態。
(心理的安全基地)



架け橋期の視点：

「一人でできること」ではなく、「やってみ
たい」と感じて、自分から関わろうとする姿
を大切にすること

③協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。



幼児教育施設

- ・遊びの中で自然に関わる
- ・役割は柔軟に変更できる
- ・関係の中で折り合いをつける
- ・保育者は関係を支える

子どもの姿
一緒にやりたい！
関わりたい！



小学校

- ・グループ編成が先に決まる
- ・役割分担が固定され、責任をもってやり遂げる
- ・話し合い活動として設定される
- ・教師が調整・整理

< 幼児期の特徴 >

先にやりたがる・
こだわる
= 自己主張から自己調整への過程



架け橋期の視点：

「協力できること」を目標にするのではなく、「関わりたくなる関係性」を育てること

④道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。



幼児教育施設

- ・生活や遊びの中で善悪を考える
- ・友達との関係の中で気づく
- ・気持ちのやり取りを大切にする
- ・保育者は対話を通して支える

< 幼児期の特徴 >

ルールを守らない・何度もする

=ルールは理解して守るのではなく、経験から学ぶ



子どもの姿
どうすんの？
気持ちをわかって
たい！

小学校

- ・きまりとして提示される
- ・指導事項として扱われる
- ・振り返りで自覚を促す
- ・集団規律が重視される



架け橋期の視点：

「規範を守る力」ではなく、「他者との関係の中で考え、気づいていく経験」を重ねること

⑤社会生活との関わり

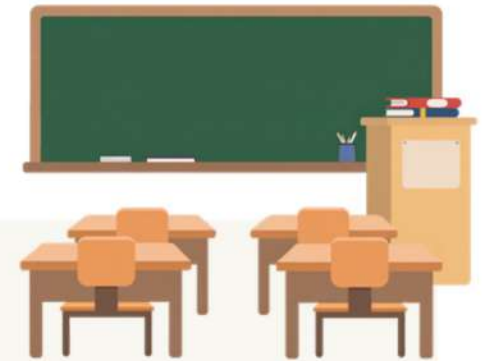
家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気づき、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。



幼児教育施設

- ・生活や行事に主体的に関わる
- ・役割を経験する機会がある
- ・地域の人々など身近な社会とのつながりを感じる
- ・遊びと生活が一体となっている

子どもの姿
やってみたい！
役に立ちたい！



小学校

- ・学校の一員としての生活が始まる
- ・当番活動や係活動など役割が設定されている
- ・学級での生活のルールを学ぶ

<幼児期の特徴>

忘れやすい

=目の前のことに関心が高い。記憶が維持できるような工夫を。

例) ドキュメンテーション



架け橋期の視点：

「学校生活に適応させる」だけでなく、
「自分から役割を引き受け、参加したくなる経験」を大切にすること

⑥ 思考力の芽生え

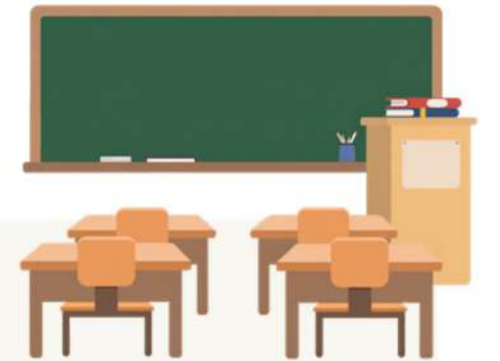
身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気づき、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。



幼児教育施設

- ・ 試行錯誤する時間が保障される
- ・ 正解のない活動が多い
- ・ 興味から探究が始まる
- ・ 過程が尊重される

子どもの姿
なんでだろ？
試したい！



小学校

- ・ 課題が明確に設定される
- ・ 正解志向になりやすい
- ・ 学習の手順が示される
- ・ 成果が重視される

< 幼児期の特徴 >

自分流のやり方に
こだわる

= まず試してから理解
する学び方



架け橋期の視点：

ただ「正解」を求めるのではなく、「やってみたい・確かめたいと思える課題設定や探究のプロセス」を保障すること

⑦自然との関わり・ 生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気づき、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にしたい気持ちをもって関わるようになる



幼児教育施設

- ・ 自然に直接触れる体験が多い
- ・ 五感を通して関わる
- ・ 継続的に世話や観察を行う
- ・ 体験が生活と結びついている

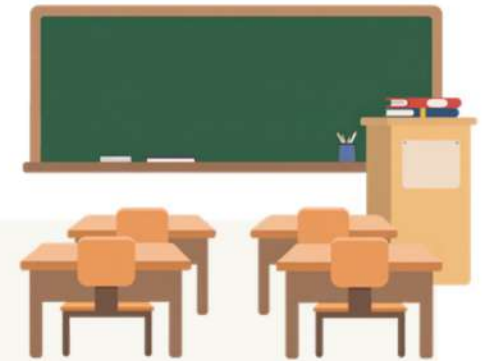
< 幼児期の特徴 >

すぐにさわりたい
がる

= 環境に関わり、五感
を通じて学んでいる



子どもの姿
触りたい！
知りたい！



小学校

- ・ 教科の学習内容として扱う
- ・ 観察や記録が中心になる
- ・ 時間や単元で区切られる
- ・ 知識化されやすい

架け橋期の視点：

「予定通り進めること」を優先するのではなく、自然や環境への気づきや関心を、学びへとつなげていくこと。 → 生活科

⑧数量・図形・標識・ 文字への関心

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

幼児教育施設

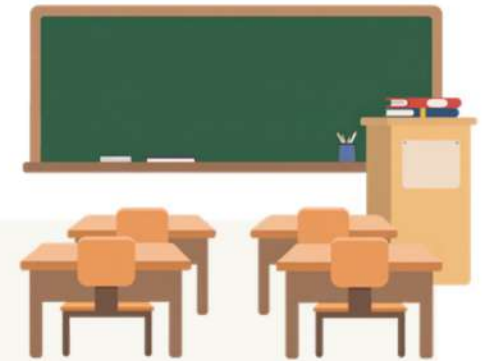
- ・生活や遊びの中で数や文字に触れる
- ・意味や必要感から自然に使う
- ・環境の中に数量・文字が存在している
- ・“自己流”が認められる



子どもの姿
これ何だろ？
使ってみたい！

小学校

- ・教科の学習の中で扱う
- ・読み書きや計算の技能として学ぶ
- ・系統的・段階的に学習する
- ・正確さが求められる



架け橋期の視点：

「正しく読み書きさせること」を先行させるのではなく、「気付き、使ってみたくなる経験」を連続させること

⑨言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。



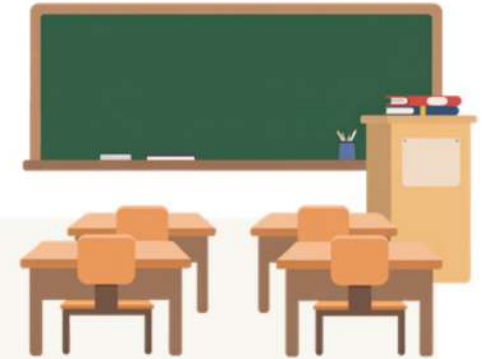
幼児教育施設

- ・近い身体距離
- ・立つ／動く
- ・表情・指さしもOK
- ・保育者は待つ・拾う

子どもの姿
話したい！
聞きたい！
わかりたい！

小学校

- ・座って一斉
- ・挙手してから話す
- ・言語化が中心
- ・教師は整理・共有



< 幼児期の特徴 >

すぐにおしゃべり
をしてしまう

= 思考を言葉で外に出
している状態。対話し
ながら考えている。



架け橋期の視点：

「正しく話すこと」を重視するのではなく、
「話したくなる・わかりたくなる環境」をつ
くること

⑩豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。



幼児教育施設

- ・ 素材や方法を自由に選んで表現する
- ・ 過程そのものを楽しむ
- ・ 感じたことを様々な形で表す

子どもの姿
やってみたい！
自分で決めたい！



小学校

- ・ 教科の活動として表現する
- ・ 作品として形にすることが求められる場面がある
- ・ 教科として評価される

＜幼児期の特徴＞
楽しい気持ちが体や表情に表れやすい
＝幼児期の表現は、身体表現を中心に非言語的な表現が豊か。



架け橋期の視点：

「上手に表現すること」を目標にするのではなく、「表したいと感じる経験を豊かにし、子どもの表現を受け止めたり」できること